２０２０年（令和２年）　９月２３日　水曜日

デーリー東北　１３面　掲載

光星執念サヨナラ

光星、八西、青森、聖愛4強

青森県秋季高校野球　第3日

秋季青森県高校野球選手権第3日は22日、弘前市は愛が4強入りした。八学光星は今夏の県大会王者・青森山田にサヨナラ勝ち。第4日の26日はるか夢で準決勝を行い、八学光星、八戸西、青森、弘学聖決を制した。弘学聖愛は青森商に逆転勝ち。青森は青森北に競り勝った。第4日はるか夢と青森県営の2球場で準々決勝を行い、八学光星は工大一との同地区対戦を行い、勝者は東北大会出場権を手にする。（取材班）

準々決勝

青森山田 0 2 0 0 0 0 0 0 0 — 2
八学光星 0 0 0 0 0 1 0 0 2× — 3

（青）藤森―佐々木、野谷
（八）森、洗平、横山―久守

▽本塁打　野呂（八）
▽二塁打　馬場（青）▽暴投　藤森3（青）
▽試合時間　2時間31分
（球審＝小松、塁審＝後藤、長浜、福永）

【青森山田―八学光星】劇的なサヨナラ勝ちに喜びを爆発させる八学光星ナイン。手前左は決勝打を浴びた青森山田の主戦藤森粋七丞＝はるか夢

佐藤 しぶとく逆転打

ハイライト

八学光星がライバルを相手に崖っぷちで勝利への執念を発揮した。3年生単独で敗れた夏の県大会決勝のリベンジに成功。3点目の走者が本塁に滑り込むと、ナインはベンチを飛び出し、本塁付近で優勝したかのように喜びを爆発させた。

二回に守りのミスが絡んで2点を先制された。打線も相手エースの変化球の見極めを徹底できず、得点圏に走者を置いても後続が倒れる苦しい展開だった。

ただ、六回、野呂洋翔が中軸の意地を見せた。「直球だけを狙い、思いきりたいた」。粘って7球目を強振した打球は、大きな弧を描いて右翼芝生席に飛び込んだ。この一発が試合の流れを変えた。相手エースの疲れが見えだした七、八回は好機も生まれ、徐々に得点の〝匂い〟が漂った。

そして九回、代打松本翔の左前打を足掛かりに1死二、三塁とした。この場面で打席に立ったのは、それまで3三振だった佐藤航太。「自分が試合を決める」。初球の内角直球をしぶとく右前に運んだ。走者2人が生還し、サヨナラ打となった。「勝利への強い気持ちが相手に勝った」と満面の笑みを浮かべた。

3年生の敗戦をスタンドで目の当たりにした夏から約2カ月。佐藤は「雪辱を果たせた」と胸を張った。仲井宗基監督は「苦しい試合を物にできたことが最大の収穫。勝負強く戦ってくれた」と激闘を戦い抜いたナインをたたえていた。（上村公稚）

【青森山田―八学光星】9回八学光星1死二、三塁、佐藤航太が右前に2点適時打を放ち、サヨナラ勝ちを決める

【評】六回に野呂の右越2点に抑えた。青森山田は先発藤森を援護できなかった。前打を口火に1死二、三塁ち。投げては3人の継投でネソロで1点差とした八学光星は九回、代打松本の左の好機をつくり、佐藤の右前2点適時打でサヨナラ勝打線が中盤以降振るわず、

デーリー東北新聞社提供